

標十五句

松岡隆子選

けふよりは虫の音を聴く眠りかな
濱地 恵理子
下町は川より昏るる草の市
唐木 和世
母の忌の雨に暮れたる鱧料理
高橋 愛子
初秋の鍵をかちりとかけて出る
田坂 孝志
暮れ方は雨降りやすし稲の花
廣瀬 ハツミ
鳩と目の合ふ八月の九段下
広渡 詩乃
襟元に小さく風立つ秋はじめ
平沢 千恵子
白粉花や淋しきときは庭に出て
室井 千鶴子
草いきれ言の葉欲しと歩くかな
渡辺 あつ子
竹山の竹に風吹く星まつり
北村 敦子
つまべにの風の気配にはじけたる
岡 美穂
街路樹の直立不動敗戦日
椎名 佐和子
夏を越す心構への爪染めて
菊池 京子
夏惜しむ硝子の花瓶洗ひては
菅原 永子
ステージに少し離れてソーダ水